

令和4（2022）年度児童館事業年間活動報告書

紫野児童館

<様式10-1>

実施回数	活動名	参加人数											内容	成果と課題	
		乳幼児	小1～3年		小4～6年		中学生	大人	ボランティア			合計			
			自由来館	学童クラブ	自由来館	学童クラブ			中学生	大学生	大人				
	(1) 日常の自由遊び活動														
	(2) 遊びの教室活動														
3	あそびの教室			97		6							103	児童館でのルール、けん玉、こま、ドッジボールなど取組を通して挑戦してみる	それぞれの取組の前に教室をもち説明することで挑戦する意欲につなげることができた。
2	けん玉検定			74		3							77	検定期間を設けてけん玉の検定を受ける	上の級を目指して挑戦する子どももいる一方で、難しい技は挑戦する前に諦めてしまう子どももいるので、意欲を持続させることが課題。
2	こま検定		1	11									12	検定期間を設けてこまの検定を受ける	
11	きりえ週間		1	237		4							242	学年ごとに図案を決めて期間内子どもたちは集中して取り組む	子どもたちが意欲的に参加できるように、レベルに合わせた新しい人気の絵柄のきりえをした。また、はじめての1年生にはカッターの扱い方から丁寧に教えた。
4	オセロ・マンカラ週間		2	131		4							137	期間を設け、オセロ・マンカラをより多くの子どもたちと対戦できるようにする	カードを用いておこなうことで、子どもたちのモチベーションアップを図った。
15	卓球週間			170	2	3							175	期間を設けて普段は1台のみの卓球台を2台に増やして多くの子どもたちが取り組めるようにする	卓球大会に向けての練習も兼ねて、技術の向上のみならず、ルールに関しても再確認することができた。
5	ドッジボール週間		10	189	1	1							201	全員が取り組もうと決め、男女や学年で分け参加しやすい工夫をしてドッジボールに参加する	力の差はあるが、上級生は手加減したり、下級生は思い切りボールを投げたりと幅広い異年齢で楽しむことができた。
8	かまぼこおとし週間			101	1	4							106	期間を設け、かまぼこおとしをする。	かまぼこおとし大会に向けての練習を行う。大会に向けての技術向上とモチベーションアップを図る。
	(3) 行事活動														
1	卓球むらさきのカップ2022			60	1							1	62	3人1組のチーム戦で卓球大会を行う	日常的には味わえない楽しさを伝える参加した子どもたちは、普段とは違う体験をし、楽しさを得られていた。参加した子どもたちにはおたよりなどで行事案内をし、次の行事参加につなげることができた。
11	けん玉こま検定		1	33									34	期間を設け、競技の検定を受ける	上の級を目指して挑戦する子どももいる一方で、難しい技は挑戦する前に諦めてしまう子どももいるので、意欲を持続させることが課題。
1	ドッジむらさきのカップ2022		2	66									68	4チームにわかれてドッジボール大会を開催した	力の差はあるが、上級生は手加減したり、下級生は思い切りボールを投げたりと幅広い異年齢で楽しむことができた。
5	クリスマス工作	2		83	2	4					2		93	クリスマス時期にダンボールと毛糸とシールを使って、クリスマスツリーを作る	廃材も使用してのクリスマス工作はエコであると同時に季節を感じられた。
1	クリスマス会		2	68		1						2	73	学童、職員出し物、サンタ登場の後プレゼント渡しをした。	学童クラブの3年生が中心となって、司会やゲームの進行をしてもらった。楽しい時間を共有することで、子どもたち同士の交流も進んだ。
1	大掃除		1	38		1							40	各部屋を担当分けし、掃除を行う	学童クラブを学年ごとにかけて担当の場所を決め、児童館を丁寧に掃除した。自由来館児童の参加もあり、どの箇所も一生懸命掃除する姿が見られた。

子ども生活

動 成 機 能	かまぼこおとし大会	1		9		1						10	団体戦でかまぼこおとし大会を実施	かまぼこおとし週間に練習を重ね、個々で高めた能力を団体戦で発揮する。チームで協力することの大切さも学んだ。	
	合同避難訓練	1		2	33							35	北合同福祉センター全体での避難訓練を実施	避難訓練の後、消火器の使い方についても指導を受ける。講評では、逃げて終わりではなく、点呼確認までが訓練であることや、靴を履く時の注意点等のお話があった。	
	子ども夏まつり実行委員会	2				1	1					2	むらさきのじどうかん子ども夏まつりに向けての企画、準備を行う	実行委員、学童クラブの3年生と高学年がつくる子どものお店がならんだ。昨年度に引き続き、子どもたちが楽しみにしている夏まつりを開催でき、喜びの声を多く聞くことができた。	
	ドッジボール2days	2		1	41		1					43	ドッジボールむらさきのカップに向けての練習を行う	ドッジボール大会に向けて、ルールの確認を徹底し、技術向上につながった。	
	安全の日	10		2	524		12					538	緊急避難を想定して素早く集合する練習を行う	何のために練習するのか子どもたちにしっかり伝えていくことがもっと必要	
	(4) クラブ活動														
	エンジョイクラブ	12					32						32	高学年以上の児童を対象にした登録制クラブ。企画から子どもたちが実施	高学年の子どもたちが学校を越えて交流する場となったと同時に、自分たちで企画、実行できる力を身につけた。
	(5) 地域間交流活動														
	京都やんちゃフェスタ'22	1	1		7	1	1		1				11	例年実施している京都やんちゃフェスタ'22を形式を変えて実施。	Zoomを通し、他館との交流も図りつつ、楽しむことができた。
	(9) エコ活動														
	エコくらぶ	9			303		7						310	クイズ形式でエコについて考える時間を持ち、年末には掃除道具を作って大掃除で使用する	毎月10分程度の時間だが楽しく理解できるよう職員も工夫して行うことができた
	合 計	108	3	25	2275	41	54	0	4	0	0	2	2404		
推 進 活 動															
	合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
子ども育成機能 合 計	108	3	25	2275	41	54	0	4	0	0	2	2404			

*注 基本活動は、指針に基づき(2)遊びの教室活動(3)行事活動(4)クラブ活動(5)地域間交流促進活動(6)障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進(7)思春期児童の活動支援に分類して記入すること。

推進活動は、指針に基づき(9)地域を知る活動(10)移動児童館活動に分類して記入すること。

指定活動は、指定児童館のみ別途報告すること。